

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第2部会(第1回)
2 会議の開催日時	平成25年4月26日(金) 13時30分から15時30分まで
3 会議の開催場所	市民会館うらわ 101集会室
4 出席者名	審議会委員：浅輪田鶴子委員、新井森夫委員、大久保秀子委員、久世晴雅委員、渋谷治美委員、鶴見清一委員、徳山晴美委員、根本稔巳委員、林一夫委員、三宅貫三委員、宮本直美委員、事務局：江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、猪狩文康、南友和、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・部会の進め方等について ・健康・福祉の分野におけるこれまでの取組と課題等について ・教育・文化・スポーツの分野におけるこれまでの取組と課題等について ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	0人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会第2部会（第1回）議事概要

部会委員の紹介の後、部会長が選出されました。

○部会長 渋谷 治美 埼玉大学教育学部教授

次に、渋谷部会長より副部会長の指名が行われました。

○副部会長 大久保 秀子 浦和大学こども学部学部長

議題（1）部会の進め方等について

次について、資料1に基づき事務局から説明した後、審議が行われ、事務局案のとおり承認されました。

○部会が担当する分野

○部会の審議スケジュール

議題（2）健康・福祉の分野におけるこれまでの取組と課題等について

議題（3）教育・文化・スポーツの分野におけるこれまでの取組と課題等について

次について、資料2-1及び資料2-2に基づき事務局から説明した後、両分野に関する意見交換を行いました。

○基本構想における記述

○現行基本計画に基づく主な取組

○両分野の主な課題

○施策展開（案）

【主な意見】

- ・「地域健康福祉連絡会を市内の47地区に設置し」とあるが、地域福祉の促進にあたっては、地区社会福祉協議会の実情や、市と市社会福祉協議会との関係性などに留意すべきである。
- ・合併後、地区社会福祉協議会にスポットが当たり始めたがほとんど前に向いて進んでいない。地区社会協議会が身近なものに感じられないところもある。この10年を反省して、地域の住民とともにしっかり前を向いて進むべきである。
- ・資料においては、施設が増えた、対応できる人数が増えたこと等が掲載されており、「困っている人が減った」という本質の数値については示されていない。本質をよく見極め、根本をしっかりと把握して本質を改善していく施策を実施すべきである。
- ・「スクールサポートネットワークの構築推進」とあるが、本来は学校教育の領域でもっと努力すべきで、足りない部分を地域が補うようにすべきと考える。
- ・待機児童の問題など、未来の市民に対する施策が結果的に疎かになっているように思われる。未来を担う子どもたちに、何かを残す施策を考えていくべきだ。
- ・芸術文化の奨励は結構なことだが、例えば絵画なら絵を描く技術ではなく、絵画

を通じて心を磨くことが大切と考える。文化を通じて何をするのか、それを基本計画にどのように反映するのか、考えていきたい。

- ・現状で一番の問題は児童生徒の自殺や学校のいじめと考える。青少年の健全育成については、非行や犯罪の防止が本質なのではない。もっと根本的なこと、例えば家庭教育の大切さや地域社会がどのように対処すべきかを議論する必要があると感じる。問題のない子どもがほとんどであり、その子どもたちをどのように伸ばしていくかという施策も必要ではないか。
- ・他の政令指定都市と比較すると、体育館の整備など、「スポーツのまちづくり」という点で立ち後れているように思われる。関連団体と市とのコミュニケーションもしっかりとやってほしい。
- ・市民一般の幸せと、障がい者の幸せは何ら変わらないものである。危険な行為を注意しない世の中の風潮も寂しいことで、心のつながりの大切さを強く感じている。
- ・学校教育の場において、様々なプランを中心となって進めているのは現場の先生方であり、先生たちの意見をよく聞くべきである。
- ・「さいたま市文化芸術都市創造条例」が施行されたが、さいたま市らしさをもっと発揮するためにも、音楽・美術など多様な方面に目を向けるべきである。また、どのような支援があるのか見えづらい。市民と行政が意見を交わす場がもっとあってよいと感じている。
- ・障がい者への理解が進んでいない問題がある。障がい者に対する理解度を高めることを重視すべきではないか。
- ・総合振興計画のほかに、分野別の様々な計画があるわけだが、この両者の整合は図れているか。齟齬をきたしているものはないか、留意すべきである。
- ・ノーマライゼーションなど、本来は特定分野だけでなく総合的・横断的に位置づけるべき考え方がある。基本計画ではなかなか難しいが、まとめ方の工夫が必要ではないかと感じている。

議題（４）その他

事務局から、部会の第２回開催日程について連絡しました。

○５月１０日（金）午後２時から